

BUDŌ

NEWS

今月のニュース



平成29年武道振興大会

水落文部科学副大臣（右）に要望書を手渡す



自井日出男日本武道館理事長の発声で乾杯

平成29年武道振興大会

武道のより一層の発展を目指して



主催者を代表して挨拶を行う高村正彦武道議員連盟会長

平成29年武道振興大会（主催：武道議員連盟・日本武道協議会・日本武道館）が3月1日、東京・永田町の憲政記念館で開催され、武道議員連盟に所属する国会議員、武道関係者約280名が出席した。

振興大会では、次期中学校学習指導要領の保健体育・武道に実施可能な種目として武道全9種目を並列明記すること、中学校武道必修化の更なる充実、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の成功に向けた支援、柔道・空手道の会場となる日本武道館の増改修工事の支援などを要望する決議文が採択され、大畠章宏武道議員連盟副会長から水落敏栄文部科学副大臣へ手渡された。

振興大会は、北川知克武道議員連盟理事・事務局長の開会宣言で幕を開けた。次に、主催三団体を代表し

て高村正彦武道議員連盟会長が挨拶に立った。

「今年も恒例の武道振興大会を開催したところ、大勢の武道家の皆さんが参加されたことに対し、心から御礼申し上げます。あわせて、常日頃から武道の振興にご尽力をいただいていることにも感謝申し上げます。私や皆様の渴望が実って、平成24年度から武道必修化が実現したわけがあります。なぜ武道必修化を目指したのか、それぞれの武道いづれも、礼に始まって礼に終わる、技を習得する上で心と体を鍛える、道を求める、そういった武道に共通した美しい日本人の心を、武道を必修化すること、取り戻すことができる。そういう考えで必修化を実現したものであります。当初心配した事故もなく、大過なく進んでいるといえますが、大過なければいいというもので



松永光日本武道協議会・日本武道館会長



高村正彦武道議員連盟会長



大島章宏武道議員連盟副会長・理事長



水落敏栄文部科学副大臣



会場の憲政記念館

もないと思います。我々が目指した目的が実現できるように、本物の武道にみんなが触れられるようにしたいといけません。そのためには体育の先生だけでは足りません。全国の先生に参加していただき、子供が本物の武道に触れられるように、ご協

力をお願いしたいと思います」

続いて、松永光日本武道協議会・日本武道館会長が登壇した。

「たくさんさんの武道の専門家の皆様が集まっていたいただき感謝申し上げます。皆様方のお力で、より一層武道の普及と発展を図り、日本を担っていく青少年を力強く健全に育てていくにはありませんか。武道館としては、皆様方の期待に応えられるように武道の振興・発展に全力を尽くしてまいりますので、今後ともよろしくご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます」

来賓祝辞では、まず伊達忠一参議院議長が挨拶を行った。

「29年振興大会が盛大に開催されることにお喜びを申し上げます。武道必修化が始まってまもなく5年です。武道を学ぶということは日本の心に触れることでもあります。我が国の将来を担う若者たちが、そうした機会に等しく恵まれていることは誠に意義深いことでもあります」

引き続き、安倍晋三内閣総理大臣の毛筆の署名が入った祝辞が読み上げられた後、各武道団体の代表挨拶が行われた。

その後、大島理森衆議院議長が次のように祝辞を述べた。

「武道は英語でなんというのか。調べてみたら、マーシャル・アーツ、ミリタリー・アーツという横文字が出てきました。しかし、アーツといわれると少し感覚が違います。我々の気持ちにぴったりきません。武道の「道」は日本人の精神のような気がしてなりません。心技体という言葉もその一つだと思います。皆様のお陰で、教育の場でも、オリンピックの場においても、世界中に武道が広がっていること、改めて皆様のご努力に敬意を表したいと思います」

その後、白井日出男日本武道協議会・日本武道館理事長の発声で乾杯となり、出席者が歓談する中、水落敏栄文部科学副大臣が会場に到着し、大会決議へと移った。

大島章宏武道議員連盟副会長・理事長が決議を朗読すると、満場一致の拍手で採択され、水落文部科学副大臣に手渡された。

それを受けて、水落文部科学副大臣が、「武道は我が国特有の伝統文化であり、自らを律し、相手を尊重する態度を養うなど、豊かな人間形

成に資するものであります。今日、大人から子供まで武道が多くの人に親しまれていることは、皆様方のご

努力の賜物です。24年度からすべての中学校で武道が必修化され、生徒が礼などの伝統的な所作や、相手を尊重する態度を身に付けるなど、着実な成果をあげています。文部科学省では、本日の決議もふまえ、武道のより一層の振興を図ってまいります。また、東京オリンピックにおいて日本発祥の武道の一つである空手道が正式競技として決定しました。

日本の伝統や文化を世界に広める良い機会だと考えておりますので、皆様方のさらなるご支援、ご協力をお願いいたします」と挨拶した。

最後に、江渡聡徳武道議員連盟副会長が閉会宣言を行い、「本日、皆様方の総意のもとに決議させていただいた決議文、これをしっかりと実行に移せるように我々議員のみんなは汗を流していく所存です。これからも、各武道においてご発展されると同時に、武道議員連盟が汗を流したいと思えます」と述べ、武道振興大会は盛会の裡に幕を閉じた。

決議

我が国は、明治維新以来、驚異的な勢いで国力を増し、世界有数の経済大国となった。しかし、ここ十年来、国際情勢が厳しさを増す中、国力の低下が目立ち、少子高齢化や道徳心の乱れが相俟って、国家、社会の将来を暗いものにしつつある。六年前の東日本大震災の爪痕は深く、復旧・復興は未だ道半ばである。

そのような折、国は国家再生へ向け、「国と郷土を愛する心、公共の精神、生命、伝統や文化の尊重」を盛りこんだ教育基本法の改正を実現した。また、四年前には、東京で二〇二〇年にオリンピック・パラリンピック大会を開催することが決定した。誠に、ご同慶の至りである。

翻って、武道は、国民精神の根源、即ち武士道精神の真髄を基調とする、体・徳・知を一体としてはぐむ我が国固有の伝統文化で、文武両道、質実剛健を旗印とする国家、社会の繁栄と世界平和の実現に寄与する人間形成の道である。

よって、ここに、青少年の健全育成を主眼とする、平成二十四年度完全実施の中学校武道必修化を成功させるとともに、武道のさらなる振興発展が図られるよう、左記事項の早期実現を強く要望する。

記

一 平成二十四年度より完全実施された中学校武道必修化に関し、次期学習指導要領に実施可能種目として、武道全九種目を並列明記すること。

二 二〇二〇年オリンピック・パラリンピック東京大会の成功に向け、実施種目となった柔道、空手道への支援を強力に推進するとともに、会場となる日本武道館の建物・設備の増改修工事に最大限の支援・助成を行うこと。また、武道の国際的普及振興を確かなものとするため、日本武道代表团や武道指導者の海外派遣事業をより一層推進し、必要な支援、助成を行うこと。

三 中学校武道必修化が充実、成功するよう、施設、用具、指導者の条

内閣総理大臣祝辞

武道振興大会のご盛会、誠にめでとうございます。

武道は、心技体を一体として、礼を修め、技を磨き、身体を鍛え、心胆を錬るといふ、我が国が世界に誇る伝統文化です。「礼に始まり、礼に終わる」といわれるように、礼節を重んじる武道が、今日、我が国のみならず、広く世界の人々に愛され、親しまれていることは大きな喜びです。

武道が全国一万余校の中学校で必修となり、次世代を担う子供たちが伝統の武道に触れることで、心身ともに育つことを期待しています。

また、三年後には東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。本大会では、従来の競技種目である柔道に加え、空手道が追加種目として実施されることとなりました。世界の多くの方々、本大会を通じて、我が国の伝統文化である武道の真髄に触れ、平和で豊かな社会作りへとつながっていくことでしょう。

結びに、本日御参集の皆様には、平素から武道振興に御尽力を賜っておりますことに感謝申し上げます。今後とも、より多くの皆様自身の健全な発達のため、そして武道を通じた日本理解や国際親善の増進のため、お力添えを戴きますよう祈念申し上げ、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

平成二十九年三月一日

内閣総理大臣
安倍晋三

件整備をより一層推進すること。

四 特に、指導者については、教員養成大学で武道を必修化し、中学校教員採用試験に武道を試験科目として位置付けるとともに、武道有段者の学生を積極採用するよう各都道府県教育委員会に働きかけを行うこと。さらに、充実した授業が実施できるよう優れた外部指導者を各中学校に配置し、処遇改善を図って、指導に万全を期すること。また、全国一万余校の中学校体育教員を対象とした武道指導者講習会を、関係武道団体の協力を得て、実施すること。授業に当たっては、時間を増やし、複数種目の実施校拡大を図り、武道ならではの教育効果が上がる「礼」を重視した指導を徹底すること。これに関わる武道九種目の指導者研修会や指導法研究、指導書作成等、関係団体の諸活動に必要な支援、助成を行うこと。

五 将来の小学校における武道授業の実施へ向け、実践校における実践研究をより積極的に展開し、発達段階に応じた武道九種目の指導法研究を行い、準備を推進すること。

六 全国的な武道の普及振興をより確かなものとするため、全国都道府県立武道館協議会の活動に対する支援と、各都道府県武道協議会の設置促進に必要な支援を行うこと。

七 武道の源流である一千数百年の歴史を有する古武道の保存・継承を図るため、文化財指定について所要の措置を講ずるとともに、必要な支援、助成を行うこと。

八 武道場の整備については、中学校武道必修化を含め、国の補助制度を拡充するとともに、必要な支援、助成を図ること。全国の町道場については、維持存続のため、相続税、固定資産税の減免措置を講ずること。

以上、武道議員連盟・日本武道協議会・日本武道館三者によって共催する武道振興大会の名において決議する。

平成二十九年三月一日

◇各武道代表者インタビュー

10年ぶりの学習指導要領の改訂を控えての想い、武道必修化充実に向けた課題、学校現場への要望を含めた今後について話を伺った



少林寺拳法連盟
川島一浩会長



日本相撲連盟
南和文副会長



全日本柔道連盟
中里壮也事務局長



全日本なぎなた連盟
佐藤浩市会長



全日本空手道連盟
栗原茂夫副会長



全日本剣道連盟
松永政美副会長



全日本銃剣道連盟
酒井健会長



合気会
植芝守中央理事長



全日本弓道連盟
柴田猛会長

◎全日本剣道連盟・松永政美副会長
「剣道では、安全指導については日頃の稽古会で指導をするようにしておりますし、外部指導者の活用も進んでおります。剣道は事故やケガの少ない種目ですし、向上的な皆さんが一生懸命取り組んでおりますので、今後あまり気負わずに剣道の発展に努めていきます」

◎全日本柔道連盟・中里壮也事務局長
「年に6時間から10時間の武道の授業時間で、柔道とは何かを伝えきるのは難しいので、もう少し時間を拡充してほしいというのが一つ。もう一つは、柔道の専門家を学校に配置していただくことです。また、柔道の事故対策では、事故が起こる場面はある程度限られますので、そういったところを特に注意して指導するように、指導要領を作成して現場に届けております。今後は、その浸透を図っていきたいと思います」

◎全日本弓道連盟・柴田猛会長

「日本武道館の協力を得て、10万部のパンフレットを作成しました。それを全国の中学校に配布し、さらなる弓道授業の充実に向けて、協力体制を作っていくと考えてます。また、各都道府県弓道連盟の会長に対し、中学校武道授業における、弓道授業の採用促進と指導者派遣などの協力をお願いし、弓道採用校が増えるよう努力してまいります」

◎日本相撲連盟・南和文副会長

「指導要領はいわば、バイブルですから、それにきちんと沿って指導してもらおうと安全な指導ができると思います。学校の先生に指導要領を分かってもらえるよう、安全を考えて作成しました。危ないと思われる技を全部禁止して、徹底的に安全を確保できるルール作り、規定作りをしました」

◎全日本空手道連盟・栗原茂夫副会長

「各学校の授業については、空手道を専門とする外部指導者を積極的に取り入れていただきたいと考えております。各都道府県空手道連盟には、

日本体育協会の資格を持った指導者が沢山おります。各学校と県連盟でタイアップしてもらい、その方々を是非とも活用していただきたいです。全日本空手道連盟では空手道の採用校を一枚でも多く増やすべく、今後とも努力してまいります」

◎合気会・植芝守央理事長

「新しい学習指導要領案には残念ながら銃剣道が記載されていないなかつたので、9種目入った方がいいなと思いますね。合気道は採用校がまだ40校くらいですから、とにかく少しでも多くの学校で採用していただいで、それに対応できるだけの体制を作っていききたいと思っています」

◎少林寺拳法連盟・川島一浩会長

「学習指導要領に少林寺拳法が初めて明記されることとなりましたが、武道の採用においては各校長の意見が強く、少林寺拳法の採用は、まだまだこれからです。少林寺拳法は用具や畳など必要なく、学校現場で扱いやすい種目です。今後多くの学校で採用されるように連盟でも指導者育成など、努力してまいります」

◎全日本なぎなた連盟・佐藤浩市会長

「学校現場では、武道を通して日本人の魂を理解した世界に通じる人材を育てていただきたいです。今回の学習指導要領の改訂で、はつきりとなぎなたを明記していただいで大変感謝しています。それに応えられるように、これからしっかりと普及促進に努力していきます」

◎全日本銃剣道連盟・酒井健会長

「これまでいくつかの県で銃剣道を採用してほしいと中学校にお願いがあがったのですが、そのときの拒否の理由が学習指導要領に載っていないからでした。だから学習指導要領には何が何でも載せてもらいたいという気持ちでした。スポーツ庁の説

明では実績がないから載せられないということなのですが、逆だと思えます。各中学校が武道を選ぶことを考えたらず、載せていただかないと採用校が増えません。逆に載っていないということは、銃剣道はやらないでもいい、という理解にも繋がってしまいます。多くの学校で銃剣道の素晴らしさを理解してもらいたいという気持ちで普及してしますので、そこだけはなんとかしてほしいという気持ちです。文科省が一般に門戸を開いているのはパブリックコメントしかありませんので、多くの人に賛同いただいでパブリックコメントを寄せるなど、会長以下、一丸となって取り組んでいきたいと思

◇スポーツ庁・高橋道次長

「関係団体の方々が熱心に武道振興に取り組んでいただいているということで、大変ありがたく思います。学習指導要領の改訂については、現在パブリックコメント募集期間中ですので、そこに寄せられる意見や、本日の皆様の意見をふまえて、3月末に最終的な決定をしたいと考えています。

今後は部活動指導員というものを制度化して、外部の指導者が、できるだけ学校の部活に入りやすくなるようにする予定です。武道種目は外部指導員のニーズが高いと思いますので、関係団体にもご協力いただいで、部活における武道振興も図っていききたいと思っております」



会議の様子

武道議員連盟総会

多様な武道が選択できる制度整備を推進

平成29年武道議員連盟総会は武道振興大会に先立って、東京・永田町の憲政記念館で開催された。大会には、武道議員連盟の国会議員70名(代理出席を含む)、日本武道館・日本武道協議会役員、スポーツ庁幹部の計87名が出席し、28年度の収支報告、スポーツ庁による武道振興施策・学習指導要領改訂の説明、日本武道協議会の現場報告、質疑応答が行われた。

会議は福岡資磨事務局次長が司会者となって進行し、冒頭、高村正彦武道議員連盟会長が挨拶を行った。「恒例の武道振興大会前の総会です。コンパクトにして有意義な会議にしたいと思っておりますのでご協力をよろしく願います」

次に松永光日本武道館会長が挨拶。

「武道館発展のために議員の皆様からいろいろなアドバイスをいただき、日頃のご支援に対し感謝申し上げます。武道館としては設立の目的を達成するために今後ともしっかりやっていきたいと思っておりますので、ご指導、ご支援をお願いいたします」



山谷えり子 柔道議員連盟理事



松永光 日本武道館会長



高村正彦 柔道議員連盟会長



南和文
日本相撲連盟副会長



福本修二
全日本剣道連盟副会長兼専務理事



高橋道和 スポーツ庁次長

その後、北川知克武道議員連盟理事・事務局長から簡潔明瞭な形で会計処理が行われている旨報告があり、高橋道和スポーツ庁次長が国の武道振興施策についての説明を、配布資料に基づいて行った。まず、27年度中学校保健体育の「武道」実施状況について、合気道、少林寺拳法が20校近い採用になったほか、銃剣道で1校採用校が出たことが報告された。続いて、10年ぶりに改訂される次期学習指導要領の改訂(案)について説明を行った。

「今年度は学習指導要領の改訂の年なので、武道の実態調査を詳細に分析しました。合気道、少林寺拳法などが広がりを見せ、銃剣道も1校実績ができました。武道については地域、学校の実態に応じて多様な種目を選択できるようにするという観点から、『柔道〜なぎなた』までの8種目を明記して、より一層様々な武道に触れられるようにしたいと思えます。銃剣道が明記できておりませんが、実施状況をふまえて、まだ指導要領への記載が難しいのではないかと議論があったので現在パブリックコメントにかけています。現

在、指導要領の下に解説書を作る予定ですが、そちらでは日本武道協議会加盟の実施種目として9武道を記載する予定です」と述べた。

続いて、29年度予算についての説明を行い、武道等指導充実・資質向上支援事業として、支援体制の強化種目を柔道、剣道の2種目から9種目に拡大して、「指導法のガイドライン作成、人材バンクの育成、指導資料作成、地域指導者の指導力向上、教育委員会学校との連携」などに使用する予定であると説明した。

その他、口頭にて文科省、スポーツ庁で見直しを進めている運動部活動のあり方について、地域の指導者が学校現場で指導できるように学校教育法の施行規則に部活動指導員を位置づけることを検討し、制度の整備を進めていることが報告された。

続いて、日本武道協議会の現場報告となり、福本修二全日本剣道連盟副会長兼専務理事と南和文日本相撲連盟副会長が意見を述べた。

最初に、福本副会長兼専務理事が、「大会、審査会、講習会、社会体育指導員養成、各地域に講師を派遣することが事業の柱です。最近では少子

高齢化の影響で減少しているもの、年間約4万人が初段を取得しています。必修化関連では、日本武道館と全剣連が全国5ブロックで、剣道を専門としない教員が対象の指導者研修会を実施しています。今後ほ
 できるだけ、こういう方々を支援していききたいと思います」と報告した。

次に、南副会長が、「最も大切なことは、国内への指導普及です。小学4年生以上が参加するわんぱく相撲大会では4万人以上が参加してお
 りますが、中学の部活では、28年で、

384校1216人の加盟、高校では189校938人と、徐々に人数が少なくなっています。理由として、中学生になると裸になることを極端に嫌がる、指導者がいないなどの原因が考えられますので、都道府県での教員採用を活発に進めてもらいたいと考えています。また、武道必修化を有効に
 使ひ、相撲を安全に行つて、魅力を感じてもらひ、大相撲に移行してく
 れる人を増やしたいと思ひます」と
 今後の展望について述べた。

最後に質疑となり、山谷えり子武道議員連盟理事から、「本日の決議案には武道全9種目を並列明記、9

種目の指導法研究を行い、と記載しているにもかかわらず、学習指導要領(案)には銃剣道が載っていません。またその下の部分では、実態に
 応じて空手道、なぎなたなどと書いてあり、弓道、相撲、少林寺拳法、銃剣道が書いてありません。ここは
 やはり、全9種目を書いていただいた方がいいのではないのでしょうか。
 3月中旬までパブリックコメントの受付期間なので、修正は可能だと思
 います」との指摘があつた。

この指摘を受けて、スポーツ庁の高橋次長は「学習指導要領に書くとい
 うことは、指導書から格上げされて公的な位置づけがされ、全国的な
 基準になるものなので、全国的な広
 がりがあるものを載せるのが筋では
 ないかということがあります。例え
 ば、杖道などは2県6校になつてお
 り、その位置づけについても検討し
 なければなりません。採用校が増え
 たら銃剣道も記載するということ
 で、そのために9種目分の予算を措
 置しているということをご理解いた
 だきたいです」と回答した。

最後に、司会の福岡資麿事務局次長が閉会を宣して、会議は終了した。

武道議員連盟役員名簿

会 長	高村 正彦 (自民)		
副 会 長	赤松 広隆 (民進)	江渡 聡徳 (自民)	衛藤征士郎 (自民)
	大島 理森 (自民)	大島 章宏 (民進)	河村 建夫 (自民)
	鴻池 祥肇 (自民)	塩谷 立 (自民)	高木 陽介 (公明)
理 事 長	大島 章宏 (民進)		
理 事	逢沢 一郎 (自民)	有村 治子 (自民)	江田 康幸 (公明)
	北川 知克 (自民)	羽田雄一郎 (民進)	森 英介 (自民)
	山谷えり子 (自民)		
事 務 局 長	北川 知克 (自民)		
事務局次長	福岡 資麿 (自民)		

平成 28 年 8 月 9 日現在

武道の振興について

スポーツ庁
(28年度予算額 49.5億円)
29年度予定額 50.1億円

1. 武道指導の充実

(1) 武道場の整備

46.0億円

中学校における保健体育科の「武道」を安全かつ円滑に実施するため、公立中学校武道場新築事業等に対する国庫補助を行い、整備促進を図る。

- 公立中学校武道場の整備（学校施設環境改善交付金）
- 私立中学校等武道場の整備（私立学校施設整備費補助金）

(2) 指導内容の充実

3.5億円

○武道等指導充実・資質向上支援事業

武道等の安全かつ円滑な実施のため、教員の指導力向上を図るとともに、これまでの柔道、剣道に加え、新たに相撲、空手道、なぎなた、弓道、合気道、少林寺拳法及び銃剣道の指導ガイドラインの作成や指導者データベースの整備などを行う。

○学校における体育・スポーツ資質向上等推進事業

体育・保健体育の授業において、運動が苦手な児童生徒や障害等により特別な配慮を要する児童生徒への指導が不十分であることなどの諸課題に対応した実践研究を行い、全国的な普及を促進する。

○学校における体育活動での事故防止対策推進事業

体育活動中の重大事故事例や情報、再発防止のために留意すべき点、事故防止方策等について分析を行うとともに、体育活動中における安全管理・事故防止について全国的な普及啓発を行う。

○スポーツ庁等が実施する武道講習会

武道関係団体との共催等により、体育担当教員や武道の部活動指導者を対象として、各地域のリーダーとなり得る教員を養成するための武道講習会を実施。

○学習指導要領等の趣旨徹底

学習指導要領の趣旨や理念、変更点等について理解を図るため周知徹底を行う。

(3) 武道関係教材等の充実

平成24年度から、10か年にわたる「義務教育諸学校における新たな教材整備計画」に基づき、所要の地方財政措置が講じられている。

2. 武道団体への支援等

(1) (公財) 日本武道館への補助

0.6億円

日本武道館が実施する古武道保存事業、青少年武道錬成大会、武道指導者講習会及び武道国際交流事業に対して補助。

(2) (独) 日本スポーツ振興センターによる助成

競技力向上事業助成やスポーツ振興基金助成、スポーツ振興くじ助成等を通じて、団体の行う選手強化活動や武道教室等の事業などに支援。

(平成27年度実績額)

6.0億円

(平成28年度配分額)

6.8億円

●スポーツ庁資料

中学校学習指導要領（案）【 武道抜粋 】

第7節 保健体育

第2 各学年の目標及び内容
〔体育分野 第1学年及び第2学年〕

2 内 容

F 武 道

武道について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて簡易な攻防を展開すること。

ア 柔道では、相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、投げたり抑えたりするなどの簡易な攻防をすること。

イ 剣道では、相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの簡易な攻防をすること。

ウ 相撲では、相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、押したり寄ったりするなどの簡易な攻防をすること。

(2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。

(3) 武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ること。

〔内容の取扱い〕

(2) 内容の「A体づくり運動」から「H体育理論」までに示す事項については、次のとおり取り扱うものとする。

カ 「F武道」については、柔道、剣道、相撲、空手道、なぎなた、弓道、合気道、少林寺拳法などを通して、我が国固有の伝統と文化により一層触れることができるようにすること。また、(1)の運動については、アからウまでの中から一を選択して履修できるようにすること。なお、学校や地域の実態に応じて、空手道やなぎなたなどについても履修させることができること。また、武道場などの確保が難しい場合は指導方法を工夫して行うとともに、学習段階や個人差を踏まえ、段階的な指導を行うなど安全を十分に確保すること。

平成 27 年度中学校保健体育の「武道」実施状況

◆平成 27 年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」を基にスポーツ庁において詳細に分析し作成。

調査実施期間 平成 27 年 4 月～平成 27 年 7 月
対象校 10,951 校
回答校 10,578 校

※銃剣道については、本調査では報告はなかったが、平成 28 年 1 月に神奈川県の中学校（1 校）で実施した旨の報告があった。その他に、杖道（2 県、6 校）、棒術（1 県、4 校）、柳生新陰流剣道（1 県、3 校）などがある。

種 目	都道府県数		実施学校数
柔 道	47	100%	6,431
剣 道	47	100%	3,763
相 撲	43	91.5%	377
空 手 道	35	74.5%	230
なぎなた	28	59.6%	77
弓 道	21	44.7%	24
合 気 道	20	42.6%	43
少林寺拳法	16	34.0%	27
銃 剣 道※	1	2.1%	1

武道等指導充実・資質向上支援事業

29年度予定額：190,482千円

これまでの取組

平成23年度から小学校、平成24年度から中学校で現在の学習指導要領が実施され、体育関係では、武道等の必修化による国民の不安等の広がりを踏まえ、国が先導しながら全国的に安全かつ効果的な指導を図ってきた。これらの取組によりこれまでには死亡又は重大事故は生じていない。

課題

全国体力・運動能力、運動習慣等調査や学習指導要領の成果と課題の検証のための調査の結果から学習指導要領のねらいの実現や運動嫌いな子供を作らないようにするためには、全国的に一部領域等で質の高い授業の実践、若手教員をはじめとした指導者の資質向上や指導力強化が必要。また、次期学習指導要領改訂では、武道指導の内容の充実が見込まれる。

- 武道等や課題がみられる領域の指導を担う教員の資質向上を図る。
- 体育教員資質向上プログラム開発・実践
 - 優れた外部指導者との連携した指導体制整備
 - 優れた指導力を有する体育指導員派遣
 - 指導力向上のための研修の実施
 - 大学と連携した課題研究
 - 域内合同体育研究会実施

教員の資質向上・指導力強化

関係団体等との連携による支援体制の強化のための取組
柔道、剣道に加え、新たに相撲、空手道、なぎなた、弓道、合気道、少林寺拳法、銃剣道に拡充

- 指導法のガイドライン作成
- 人材バンク等の作成
- 指導資料作成等
- 地域の指導者の指導力向上
- 教育委員会・学校との連携

支援体制の強化（拡充）

特色ある武道指導の実践

- 中学校武道の指導の充実を図る。
- 地域や学校の実態に応じた特徴的な取組を実践研究
 - 実践研究の成果と課題の整理
 - 全国的な普及及び次期学習指導要領に向けた実践

指導成果の検証

中学校保健体育において武道等を必修化したことによる成果と課題の研修を踏まえた課題解決のための指導法等

- 大学、教育委員会、学校の連携・協力による調査研究

- 体育・保健体育の授業での子供の「できる」の実感の拡大
- 子供の運動・スポーツに対する意欲や関心の向上
- 学習指導要領のねらいの実現
- 次期学習指導要領に向けた参考資料・エビデンスの収集

一千数百年の歴史を有する
武道の全容をこの一冊に集大成!!
武道小百科事典としても役立つ
充実した巻末の資料編!!

柔道 剣道 弓道 相撲 空手道 合気道
少林寺拳法 なぎなた 銃剣道をはじめ、
各武道統括団体の全面協力によって完成!!

日本の武道

日本武道館 編

好評発売中!

日本の武道

日本武道館 編



(B5判・上製・箱入・526頁)

目次

序章

刊行の辞：塩川正十郎 日本武道館・日本武道協議会会長
刊行にあたって：松永 光 日本武道館理事長
武道のすずめ：養老孟司 東京大学名誉教授
武道憲章〔武道憲章〕〔武道憲章英訳文〕〔ごも武道憲章〕
カラー口絵〔日本武道館 9 武道 10 日武協30年のあゆみ〕

第1章 日本の武道

第1節 日本の武道…………… 杉江正敏 大阪大学教授
第2節 武士道から武道へ…………… 菅野覚明 東京大学大学院教授
第3節 武道の近代化…………… 嘉納治五郎師範の教え：村田直樹 講道館図書資料部長
大保木輝雄 埼玉大学教授

第2章 日本の古武道

第1節 日本古武道…………… 横瀬知行 古流武術研究者
第2節 古武道の技と心……………

第3章 現代の武道

第1節 柔道…………… (財)全日本柔道連盟
第2節 剣道…………… (財)全日本剣道連盟
第3節 弓道…………… (財)全日本弓道連盟
第4節 相撲…………… (財)日本相撲連盟
第5節 空手道…………… (財)全日本空手道連盟
第6節 合気道…………… (財)合気道連盟
第7節 少林寺拳法…………… (財)少林寺拳法連盟
第8節 なぎなた…………… (財)全日本なぎなた連盟
第9節 銃剣道…………… (社)全日本銃剣道連盟

第4章 組織・研究機関

第1節 日本武道協議会……………
第2節 全国都道府県立武道館協議会……………
第3節 日本武道学会……………
第4節 日本古武道協会……………
第5節 武道学科等設置大学…………… ① 国際武道大学 ② 国士館大学
③ 東海大学 ④ 日本体育大学 ⑤ 鹿屋体育大学 ⑥ 中京大学
⑦ 天理大学 ⑧ 筑波大学

第5章 資料編

第1節 役員名簿・組織図……………
第2節 日本武道協議会武道功労者一覧……………
第3節 全日本選手権大会優勝者一覧……………
第4節 年表〔武道・近代百四十年の歩み〕中村民雄 福島大学教授
第5節 学校体育における武道の変遷…………… 本村清人 東京女子体育大学教授
第6節 武道主要参考図書……………

(現職・法人名は刊行時)

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授
中村 民雄 著
(四六判・上製・370頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編
翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット
(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道 子ども心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー
菅野 純 著
(四六判・上製・410頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者
田谷 将俊 著
(四六判・上製・376頁)

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。



漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

マンガ・武道のすすめ



相撲は4名の先生方を紹介

武道各種目の概要を見開きで解説

塔尾武夫 現代相撲かくあるべし 下村勝彦 静岡焼津 さかなの町のわんぱく力士
住吉和則 相撲好き遺伝子を守る！ 安井和男 先輩部長が育てる侍力士

沖縄空手会館が落成

空手道のさらなる伝承・発展のために



沖縄空手会館の外観＝連続した石貼りはグスク（御城）の力強い石積をイメージしている。
外壁には琉球石灰岩を多用、沖縄らしさを感じさせる



交流演武祭の様子



3月4日、沖縄空手会館が、沖縄県・豊見城城址公園跡地に開館した。同日には、開館を記念し、国内外の招待者・関係者およそ700名が集まり、落成記念のセレモニーと式典及びシンポジウムが行われた。

一般公開された5日は、稽古参加者・見学者およそ2500名が来館した。同日には、初稽古会として、沖縄伝統空手道振興会と三田空手会との交流演武祭が行われた。三田空手会とは、本土に空手を普及させた船越義珍ふなごしぎよたかの教えを受け継ぐ慶應義塾體育會空手部のOB会である。

空手道は、2020年東京五輪の正式種目となり、今や世界から注目される武道となった。そのルーツをたどると琉球・沖縄の伝統武道にあたる。伝統空手と競技空手の更なる伝承・発展のため、空手道発祥の地・沖縄の発信拠点として、今後、沖縄空手会館は大きな役割が期待される。

3月4日

落成記念セレモニー

□植樹祭

晴れ晴れとした快晴で初夏の気候となった4日、午前9時半より特別道場前庭にて植樹祭が行われた。翁長雄志沖縄県知事ほか、内閣府、県議会、豊見城市、沖縄伝統空手道振興会、全日本空手道連盟、沖縄の空手・古武術保存会、少年少女空手代表者の役員と関係者が参列。8つのグループごと、参列者は空手道と沖縄空手会館の発展と興起を願い、司会者の「エイ」の掛け声のもと、シンボルツリーとなる8本の「空手の樹」に3回盛土をかけた。



植樹祭の様子、翁長雄志沖縄県知事(左)

□奉納演武

10時より、場所を空手会館のシンボル施設となる守禮之館(屋外の特例道場)に移し、奉納演武が行われた。奉納演武では、翁長県知事ほか多くの関係者が見守るなか、県無形文化財「沖縄の空手・古武術」保持者4名が重厚感ある演武を披露し



上原武信範士十段の「三十六」



比知屋義夫範士十段の「転掌」

た。上原武信範士十段は上地流最高峰の型で四方八方に敵を想定しダイナミックな動きが特徴である「三十六(サンセイリユ)」は、比知屋義夫範士十段はゆつたりとした動きのなかで丹田呼吸法を整える剛柔流の鍛錬型「転掌(テンショウ)」は、東恩納盛男剛柔流師範は剛柔流の組手で、



東恩納盛男剛柔流師範の「約束靠基」



仲本政博範士十段の「前里のヌンチャク術」

多彩な関節技や投げ技がある「約束靠基(ヤクソクカキエ)」は、仲本政博範士十段は多くの変化を秘めた「前里のヌンチャク術」を行った。最後に友寄隆宏範士十段も登壇し、保存会の5名が演武台に立ち、関係者から大きな拍手が送られた。



左より比知屋義夫氏、上原武信氏、友寄隆宏氏、東恩納盛男氏、仲本政博氏



関係者から大きな拍手が送られた



□テープカット

10時30分より空手会館北口玄関前にてテープカットが行われた。翁長県知事をはじめ、新里米吉・沖縄県議会議長、鶴保庸介・内閣府特命担当大臣の代理として能登靖・同沖縄総合事務局局長、宜保晴毅・豊見城市長、照屋幸榮・沖縄伝統空手道振興会副会長、友寄隆宏・沖縄の空手・古武術保存会会長、笹川堯・全日本空手道連盟会長の代理として栗原茂夫・同副会長、アントニオ・エスピノス・世界空手道連盟会長の代理として奈藏稔久・同事務総長、沖縄県庁幹部2名、年少女空手代表1名が参列。沖縄空手会館の落成を記念し、テープカットを行った。

テープカット後は泡盛饗入れ式、記念切手贈呈式、そして展示施設の内覧と続いた。内覧後の記者会見では、翁長雄志県知事から沖縄空手会館の感想が述べられた。

「空手発祥の地に沖縄空手会館ができたことを大変嬉しく思います。展示施設は、世界の日本全国の空手愛好家が訪れた時、空手の隅々までわかることができると思います」

落成記念式典

メイン施設となる道場施設にて、招待者・関係者700名が集まり、沖縄県主催による落成記念式典が執り行われた。当日の3月4日の沖縄「三線の日」に因み、三線演奏から始まる。その演奏にのせて沖縄県立芸術大学のオーブニングに欠かせない「かぎやで風」の琉球舞踊により幕開けとなった。

▽翁長雄志・沖縄県知事の式辞

「県民・国内外の多くの空手関係者が待ち望んだ沖縄空手会館は、沖縄復帰40周年記念事業の一つとして、平成24年度から整備を進めてまいりました。沖縄空手会館は空手発祥の地・沖縄を世界に発信する有形のシンボルです。また、沖縄の伝統文化である空手を保存・継承・発展するための拠点となる施設であります。世界の空手家が沖縄に集結し交流を深め、先人たちから受け継がれた技や精神性を継承し、その発展を図ることを祈念いたします。また、2018年8月には、沖縄空手会館にお

いて第1回沖縄空手国際大会を開催いたします。また2020年の東京五輪では空手が正式種目となり、沖縄県でも五輪に向けた様々な取り組みを行ってまいります」

沖縄県からの建設経過報告に次いで、来賓者により祝辞が述べられた。

▽鶴保庸介・内閣府特命担当大臣

「空手は沖縄の地で生まれ、沖縄の豊かな自然と風土に醸成されてまいりました。今や190を超える国・地域に広がっております。空手は国境を越え、世界の人々に愛されている沖縄の文化であります。この空手会館から、沖縄が他の地域にない大きな価値を有していることを発信していただきたいと思えます。内閣府としても、本年度内に多言語によるウェブサイトを立ち上げ、沖縄空手の魅力を世界にPRしていきます」

▽笹川堯・全日本空手道連盟会長代理

栗原茂夫・同副会長
「空手道発祥の地である沖縄県が、空手道を保存し、継承・発展させる拠点となる沖縄空手会館を建設されたことは、誠に意義深いものがあります。今、空手道は東京五輪追加種



落成記念式典の様子



翁長雄志沖縄県知事による式辞

「沖縄は空手道の故郷であり、世界の空手家の故郷であります。空手道は沖縄で誕生し、本土に渡り、海外各地へ伝わりました。長い旅路を経て、2020年には五輪種目に決定いたしました。国際的に広がった沖縄の文化である空手道の殿堂が設立されたことをお慶び申し上げます。2014年からは那覇市において、WKFによる空手1シリーズの競技大会が世界各国の競技者を招いて盛大に開催しております。WKFは伝統的武道の精神と競技スポーツ、すなわち「伝統と革新

目として、正式に決定しただけでなく、東京五輪で最も金メダルが期待される種目として日本中の注目が集まっています。また、世界中の空手道愛好者にとって、一度は訪れたい地域がここ沖縄であります。今後、世界中から競技者や愛好者が訪れることが予想されます。空手会館を発信拠点として、先人たちの偉業の継承と普及・振興に貢献されることを期待いたします（代読）」

▽アントニオ・エスピノス・世界空手道連盟会長代理

奈藏稔久・同事務総長

も、剛柔流・平良貞行教士八段による「スーパーリンペイ」、上地流・島袋春吉教士八段による「サンセーリユウ」、小林流・大城功範士九段による「松村のバツサイ」、松林流・平良慶孝範士十段による「泊チントウ」、剛柔流・八木明達範士十段による「転掌（テンシヨウ）」、古武道・阿波根直信範士十段による「剣術（サイジュツ）」3、小林流・島袋善俊錬士六段による「チントウ」、剛柔流・久場良男範士十段による「セーサン」の個人型演武が次々と行われた。沖縄空手の真髄に迫る妙技に会場から大きな拍手が送られた。

の融合」の更なる発展に寄与することを誇りと感じていきます（代読）」

□記念演武

祝電披露に続いて、沖縄伝統空手道振興会による記念演武が行われた。始めに、昨年10月オーストリアで行われた世界空手道選手権大会において、男子団体形で金メダルを獲得した喜友名諒選手、金城新選手、上村拓也選手の3選手が登場した。一糸乱れぬ迫力のある「アーナンの団体形演武が披露された。その後



剛柔流・平良貞行教士八段による「スーパーリンペイ、



喜友名諒選手、金城新選手、上村拓也選手による「アーナン、

シン・ポジウム

□基調講演「沖縄の歴史と空手」

「沖縄の歴史と空手」をテーマに田名真之・沖縄県立博物館・美術館館長が講演を行った。

「中世、琉球王国は中国に17回もの使者を送り、盛んに貿易を行っていた。日本とも貿易を行い、貿易国家として確立していった。中国拳法も中国から伝播されたと思われるが、確かな記録は残っていない。

近世になると、琉球は島津の侵攻を受けるが、国としては存続した。琉球は屈することなく、様々な文化を取り入れ、琉球独自のアイデンテ

ィティーを確立していった。この頃になると、『大島筆記』など空手に関する史料もいくつか存在する。

19世紀後半、日本政府が琉球処分を行い、琉球は日本に帰属することになる。廃藩置県により、沖縄県が設置。日本の教育が進められ、琉球文化は否定され衰退していった。そんな中でも、心ある文化人により、一部の文化はなんとか継承されていた。近代になると空手は、沖縄の学校教育に取り入れられ、さらに日本の伝統的な武術と呼応する形で発展。沖縄の空手はより精神性を追求するものへと進化していった。日本本土では競技空手が発展し、沖縄の伝統空手と異なってくる。その後もGHQによる統治、日本復帰と、沖縄は時代に翻弄される。

過去、琉球・沖縄は様々な困難と向き合いながらも諦めることなく発展を遂げていった。そのなかで空手は琉球が琉球であるための大事な要素であった。現在、空手は多くの国々で愛好されている。流派が分かれるのは元気であるからだともいえる。伝統を守り更に進化・発展する空手の二兎を追う気概を期待したい」

□パネルディスカッション

「空手振興ビジョン」

基調講演に続き、「空手振興ビジョン」と題し、宮城篤正・元沖縄県立芸術大学学長が座長を務め、島袋善保・沖縄伝統空手道振興会副会長、喜友名朝孝・沖縄伝統空手道振興会理事長、知念賢祐・ワールド王修会会長、佐久本嗣男・全日本空手道連盟常任理事・選手強化委員、岩本明義・三田空手会相談役、和田光二・三田空手会理事、前田光幸・沖縄県文化観光スポーツ部長の計7名によるパネルディスカッションが行われた。

▽島袋善保・沖縄伝統空手道振興会副会長

「1970年頃から沖縄空手の普及活動が始まった。その成果が実り、現在、沖縄空手は世界100カ国以上に存在する。県の空手振興施策の財政的な支援により、海外派遣セミナー等で沖縄空手が継続的に行われてきた成果だと思う。今後ともこの普及活動が実施されることを期待する。将来、沖縄では海外の空手愛好家たちの宿泊施設等を整備させ、充実した受け入れ体制を目指すべきである」

▽喜友名朝孝・沖縄伝統空手道振興会理事長

「2008年、沖縄県知事のもと沖縄空手の4団体が大同団結し、沖縄伝統空手道振興会を結成した。その伝統空手をリードしているのは県知事である。その点を我々空手を目指す者には認識してもらいたい。五輪種目となったことは嬉しいが、世界で空手が盛んになるほど沖縄空手が絶滅危惧種になる可能性がある。現在、沖縄空手のユネスコ世界無形文化遺産登録を目指している」

▽知念賢祐・ワールド王修会会長

「1976年より、ヨーロッパにおいて、沖縄空手・古武道を広めてきた。そして2004年より毎年、セミナーを行っている。今後とも海外普及に努めていきたい」

▽佐久本嗣男・全日本空手道連盟常任理事・選手強化委員

「今後、沖縄の素晴らしい空手を、この沖縄空手会館から世界に向けて発信していきたい」

▽岩本明義・三田空手会相談役

「船越義珍先生が、大正11年に沖縄からいらつしやり、我々は空手道を直接ご指導いただきました。昭和21



田名真之・沖縄県立博物館・美術館館長



パネルディスカッションの様子

年より私は空手道を始めて、先生がお亡くなりになるまでの11年間、ご指導いただきました。敬いと親しみを込めて船越義珍翁先生、タンメー先生とお呼びしておりました。現在の空手道の源流であり、先生からお習いした沖縄の空手を後世に伝えたいと思っております」

▽和田光二・三田空手会理事

「三田空手会というのは、慶應義塾体育會空手部のOBで組織されている団体です。現在も岩本先輩をはじめとして、船越先生に直接教えを受けた先輩方からご指導いただいでい

ます。船越先生にお教えいただいた空手道を技として繋げていこうと有志が集まり、木曜の夜に「木曜会」という取り組みを行っております」

▽前田光幸・沖縄県文化観光スポーツ部長

「沖縄県文化芸術振興条例の中には伝統的な文化の継承と発展といった項目があり、沖縄空手の継承・発展もその一つであります。この空手会館も振興・発展のための拠点施設の一つであります。県は来年度、空手振興、ビジョンを策定します。空手のブランド化を目指したいです」

■ 3月5日

◇ 交流演武祭

5日、沖縄空手会館は一般公開され、道場の4面コートでは公開稽古が実施された。稽古参加者・見学者およそ2500名が来館。そのなかでも、沖縄伝統空手道振興会と船越義珍にゆかりがある慶應義塾体育會空手部OB会の三田空手会による交流演武祭が、道場の1面において9時20分より開催された。

開会式では、沖縄伝統空手道振興

会より喜友名朝孝理事長が「三田空手会の皆さんと沖縄空手会館で初の演武大会ができることを大変嬉しく思います」と挨拶。

続いて、三田空手会より、奈藏稔久会長が「6年以上前、沖縄伝統空手道振興会の皆様に三田の道場にお越しいただき、素晴らしい演武を拝見いたしました。そして再び、ここ沖縄空手会館で交流演武の場を設けていただき、感謝申し上げます」と挨拶を行った。

◇ 演武祭では、沖縄伝統空手道振興

会から、剛柔流・久場良男範士十段が、十三（セーサン）、少林寺流・佐久川政信範士九段が、鎮闘（チントー）など空手道の源流となる演武を行った。対して三田空手会は、船越師範の直弟子である岩本明義九段が、テンシヨウ、同じく直弟子である眞下欽一九段が、鉄騎二段、第1回世界空手道選手権・個人組手優勝者の和田光二氏が、莊鎮（ソーチン）と、自由一本組手などを行った。2団体が交互に演武を行う形で実施され、演武者は道場の感触を確かめながら、気合いの入った掛け声とともに技を繰り出した。



剛柔流・久場良男範士十段
十三（セーサン）。



岩本明義九段
テンシヨウ。

午前11時からは研修室において、日本武道学会空手道専門分科会主催の特別座談会が実施された。会では小山正辰・同会長が座長となり、会員とともに、沖縄伝統空手道振興会、三田空手会の3団体により実施。座談会では沖縄の伝統空手に対する様々な質疑応答がなされた。



■沖縄空手会館概要



城址跡地であり、屋外からは街並が一望できる



守禮之館＝赤瓦の屋根が特徴のシンボル施設



資料室＝空手道の史料や武具も展示



資料室＝沖縄空手の歴史をわかりやすく揭示



道場2階＝380席の固定席を完備



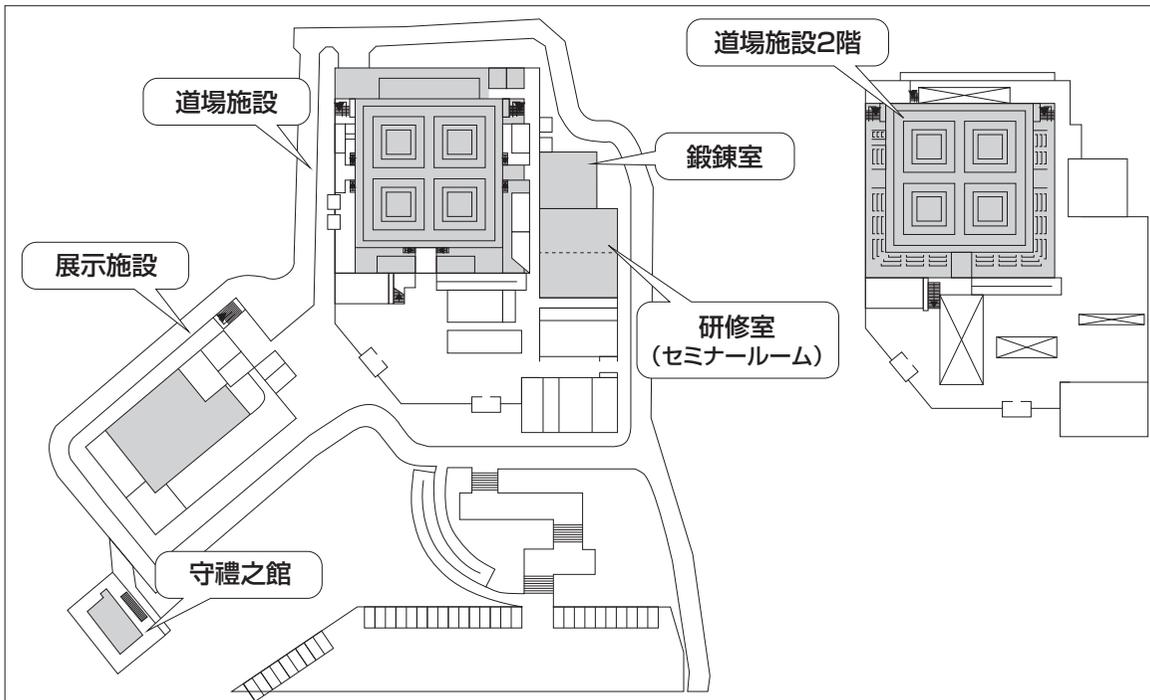
道場＝面積は1278㎡、競技コート4面分を確保。
クッション性があり武道には適している赤松を床面に使用



鍛錬室＝鍛錬具も設置



研修室＝パーティションで仕切れることも可能



総工費：65億円（沖縄県が事業費として支出）

指定管理者：沖縄観光コンベンションビューロ

所在地：沖縄県豊見城市字豊見城 854 番地 1（豊見城城址跡地）

敷地面積：3.8ヘクタール

主要用途：空手道場および展示施設

延床面積：約7,810㎡

（道場施設 5,917㎡ / 展示施設 1,803㎡ / 特別道場 91㎡）

・道場施設

- (1)空手道場…競技コート4面、空手道大会や各種イベント会場としても活用（客席数380席）
- (2)鍛錬室…伝統的な空手道の鍛錬やトレーニングを目的とした部屋、鍛錬具も保管
- (3)研修室…空手道に関するセミナーなどの座学、会議などに対応。空手道以外の使用も可能

・展示施設

- (1)資料室…沖縄伝統空手・古武道に関する展示施設、初心者向け、一般向けのコンテンツまで来館者に応じて多様に計画、エンターテインメント性を備えた施設
- (2)物販・飲食スペース

・特別道場（守禮之館）…空手道の発祥の地であることを顕示するシンボル施設。尊厳性を高めるため、高段者の昇段試験や空手の日の演武など限定して利用

建物構造：鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造

建物階数：地上1階 一部（電気室等）2階

駐車場：普通車100台程度、大型バス4台

アクセス：那覇空港からクルマで約14分（約5.5km）

■今後の「沖縄空手会館」での実施予定イベント（県主催）

- ・2017年8月：沖縄伝統空手・古武道国際セミナー
- ・2018年8月：第1回沖縄空手国際大会、沖縄伝統空手・古武道国際セミナー

日本武道館の単行本

空手評論家
金城

裕
(きんじょう ひろし) 著

唐手から空手へ

題字 松永光日本武道館会長



(四六判・上製・四五四頁)

今の空手は、その源流である唐手からての精神と伝統の技を忘れて成長してしまった。空手の将来に豊かな展望を持つためにも、唐手誕生の歴史を正しく認識する必要がある。

空手修業歴八十年。生涯を空手に捧げてきた著者が史料を繙きながら、唐手が誕生し、空手となった過程を辿る。武道研究者必携の一書。

〈目次〉

- 第一章 「唐手」とは、の問いに答える
- 第二章 中国拳法を巡って
- 第三章 琉球と中国の関係史
- 第四章 松村宗昆、「手」に息吹きを与える
- 第五章 首里手から唐手へ
- 第六章 「唐手」から「空手」へ
- 終章 空手の進むべき道

 編集・発行 日本武道館 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3 ホームページ http://www.nipponbudokan.or.jp	お問い合わせ・ご注文は 日本武道館出版広報課 までどうぞ！	TEL03(3216)5147 FAX03(3216)5158
---	-------------------------------------	--

日本武道館発行の単行本

日本の武道

日本武道館 編



一千数百年の歴史を有する武道の全容を一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実の巻末資料など、武道関係者必携の書。

(B5判・上製・箱入・526頁)

我が空手人生

金澤弘和 著



国際松濤館空手道連盟館長 金澤弘和 著
父母の教え、「からて」との出合い、厳しい修行、組織の結成、そして独自の空手理論構築まで、世界に空手を普及した男の記録。

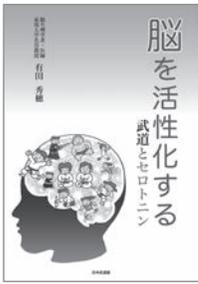
(四六判・上製・372頁)

脳を活性化する

武道とセロトニン

東邦大学名誉教授

有田秀穂 著

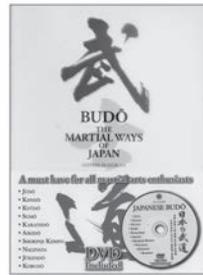


人間の心身を安定させるセロトニン——。その研究の第一人者が、誰もがができる脳を活性化させる方法をわかりやすく解説。

(A5判・並製・346頁)

BUDO: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

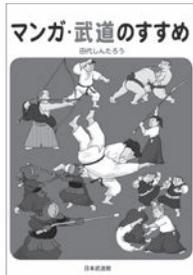


武道のすべてを網羅した『日本の武道』の英語版。海外武道修業者におすすめの書。

(B5判・上製・336頁・DVD付)

マンガ・武道のすすめ

田代しんたろう 著



漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著
武道の良さ、すばらしさを、わかりやすく描く。大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。空手道は5話を掲載。

(B5判・並製・236頁)

大先輩に聞く

田谷将俊 著

月刊「武道」記者



各武道の先達三十名に直接取材。武道との出会いから修行時代、そして現在を語る。空手道では江里口栄一、辻川禎親、金城裕の3氏を収録。

(四六判・上製・376頁)



月刊「武道」は、全国の書店で販売しています。